

すべての原発いますぐなくそう！全国会議

NAZEN 通信



第40号

2016. 8. 12発行

カンパ 5・0円

発行：NAZEN 事務局

東京都杉並区天沼 2-3-7 さかいビル 3B

info@nazen.info

伊方原発 3 号機再稼働を許すな！ 住宅追い出しと被曝労働反対を

熱いヒロシマ・ナガサキには、恥知らずにも安倍が訪問、そのあと 12 日に伊方原発の再稼働。何が「二度と繰り返さない」か。オバマのヒロシマ訪問と朝鮮戦争の切迫、安倍の改憲策動と、実際の戦争、核武装との闘いだった。

ふくしま共同診療所・布施院長からは「帰還強制を許さない運動を巻き起こそう」という訴え。住宅の補償の打ち切りと追い出し、JR 開通年間 20 ミリシーベルト基準の強制。これら一切に反対し、自主避難者を守る行動が必要だ。常磐線の再開は、JR の労働者だけでなく、保線や除染の下請け労働者も含め膨大な労働者がかかわっている。住宅追い出しには自治体労働者が。そして帰還強制される福島県民とともに生きる保育や学校の労働者、医療労働者。20 歳まで酒もたばこも禁じる国家が、子どもにも他県の大人の 20 倍の被曝をよしとしている。こんな国家許していいのか。みなが帰還強制に自問自答しながら働いている。そのすべての労働者が立ち上がる運動が必要です。

時代は動き出している。東京都知事選は、小池が自民を割って出て当選。自民党员すら、いかに



大量の機動隊に守られた安倍を弾劾するデモにたったヒロシマ・ナガサキでの闘い。写真は 8 月 6 日早朝の祈念式典を弾劾するデモ。原爆ドーム前。

安倍と自民党への怒りが強いのかを感じ取っている。もはや自民党が支配できない。誰もが昨日と同じ今日を拒否して変革を求めている。東京こそ福島や沖縄と並んで、動き出した。

「障がい者」施設での虐殺事件は、民営化と非正規化が、夜勤手当もない労働者の物扱いの現実と、分断と差別の思想を労働現場から産みだすことを示した。民営化や住民を被曝させる労働に屈して誇りを奪われるか、これと闘い労働者が誇りを取り戻すのか。それが戦争動員を許すのか、そうした社会をぶっ飛ばして新しい社会をつくるのかの選択です。今が歴史選択のとき。職場の仲間を信頼し闘おう。（織田）

◆ 被曝労働拒否の運動を東京から	東京 佐藤賢一（江戸川区職労）	…	2～3 ページ
◆ 伊方原発再稼働を許さない	NAZEN 愛媛	…	4 ページ
◆ 舞鶴で「A2-B-C」上映会	NAZEN 関西	…	5 ページ
◆ 保養のお便り	ちば 長崎	…	6～7 ページ
◆ スケジュール & カンパのお願い		…	8 ページ

福島県民を東京の自治体職員として追い出すわけにはいかない

被曝労働拒否から社会変えよう

NAZEN東京 佐藤 賢一



7月22日、「被曝労働反対の運動を東京から」を訴える集会をNAZEN東京が開催した(江戸川文化センター研修室にて)。イアン・トーマス・アッシュ監督の映画「A2-B-C」を上映し、福島県民の帰還を強制するJR常磐線再開に対して被曝労働拒否を闘う動労水戸・石井真一委員長の「労働者1人ひとりに力がないと思われているが本当は力があるんだ」というストライキ報告がありました。以下は集会の中で被曝労働拒否で立ち上がろうと訴えたNAZEN東京・佐藤代表の発言です。

福島第一原発の爆発は、日本のあらゆる問題を顕在化しつつあります。安倍首相の大嘘「アンダーコントロール云々」がありますが汚染水は今も垂れ流し状態で何も片付いていません。それでもオリンピックを誘致し、中央防波堤を中心とした利権の構図はふくらむばかり。それに比して東京に避難している5526人の福島県民のうち600世帯1400人の自主避難者は、自民党の閣議決定により、東京の公営住宅を来年3月には追い出されようとしています。

甲状腺がん患者は173人。川内村では286人に一人、湯川村では515人に1人、福島県全体のこどもたちの2193人に1人が、がんなのです。今では福島のみならず、全国で放射線の影響で免疫機能が低下し、難病患者が増加しています。また脳卒中も増加し、2011年以降65歳以上で1.4倍、35～64歳で3.4倍になっています。自然死、自然流産乳児死亡は、高汚染都道府県の茨城、福島、宮城、岩手では12.9%増、中汚染都道府県の東京・埼玉では4%増、低汚染都道府県では変化なしとなっています。今や被害は縮小どころか拡大されているのです。

◆自主避難者の住宅支援打ち切りを許すな！

避難指示を解除し住宅手当を17年3月に打

ち切ることが閣議決定されたことを受けて、自主避難者に対し福島県と東京都の職員が説明会を開催し「居住し続ければ違約金を請求する」と恫喝しています。これが帰還強制であり住宅追い出しそのものであることは明白です。しかしこれが自治体労働者のやるべきことでしょうか。避難者は被害者です。人間として生きたいから避難したのです。国が避難の補償をしないことがそもそも問題のはずです。福島県の年間放射線被曝量は、他府県の1ミリシーベルトに比べ20倍に設定されています。そんな危険なところへどうして戻れるのでしょうか。

今こそ労働組合の闘いとして被曝労働に反対すべきです。「福島県民を東京の自治体職員として追い出すわけにはいかない」ということです。福島県から説明会に参加した自治体職員も「安全・健康のために自治体労働者として今帰還させるわけにはいかない」と闘う時が来ているのです。何も安倍の強制帰還に同調する必要など一切ないのです。住民の安全・健康を守ることが自治体労働者の当然の役割なのですから。

◆福島の切り捨て、戦争法に反対しよう

チェルノブイリでは5ミリシーベルトを超えれば強制移住、1ミリ以上は移住の権利がチェルノブイリ法で決まっています。

最大の課題は「避難」そのものですが、安倍はそのことを十分に知りながら、大恐慌下資本の生き残りを優先させ、朝鮮戦争を構え福島県という自治体を切り捨てている。このことは一旦戦争になったらどうなるかということを示している。戦争になっても、資本とこの国は一切の責任を取らない。労働者が

死のうが、財産が焼失しようがだれも責任をとらうとしない。この安倍の侵略戦争と棄民路線を絶対に認めるわけにはいかないのです。

◆被曝労働拒否から全国ゼネストへ

だからこそ、自治体労働者の今までにない鮮烈な闘いが求められています。

全国54基の原発と全国に広がる放射性廃棄物に対する被曝労働拒否の闘いは、単に反対するだけではなく、原子カムラの在り方、つまりは国家そのものの在り方を問う闘いにならざるを得ません。言うならば、被曝労働拒否の闘いは、今の資本主義を批判し、打倒する中で労働者の未来社会をどう作り出していくかという壮大な闘いなのだと思います。

2018年を待つまでもなく、労働契約法は労基法を食い破り始めました。労働者は次々と非正規化され、今の青年労働者は未来も資本に断ち切られています。一生派遣、一生非正規職（低賃金）に叩き込まれていこうとしているのです。

「896自治体消滅」問題は自治体労働者の職場が無くなるということです。自治体労働者の役割は鮮明だ。二度と労働者を侵略戦争に動員しないために、全国の仲間と共に原発反対・被曝労働拒否に立ち上がり、被災地の自治体労働者とともに強制帰還に反対し、動労総連合と連帯しJR常磐線全線開通阻止で連帯することです。

中央防波堤、臨海公園等のオリンピック会場の土壌は高線量の土砂で汚染されている。そこを掘り起こし、工事、運搬、管理するのも労働者だ。かかわる者すべてに被曝労働が強制されていくこととなります。東京オリンピックに反対し被曝労働拒否で闘おう。この闘いこそが自治体労働者だけではなく、すべての労働者がここから未来を作り出す路線となっていくのです。

◆被曝労働拒否は新しい社会をつくる

「労働の奪還」をとおして社会をつくる。これが被曝労働拒否の闘いです。そして全国ゼネストで闘い全世界の労働者と国際連帯で闘おう。命・健康・安全を守る被曝労働拒否の闘いは、決して自治体労働者だけの闘いではありません。放射線は年齢・性別・職業を問いません。

政府は福島を除染に伴う高レベル汚染土（規8000ベクレル以下）を全国の公共事業でバ利用する方針を決定しています。これは従来のバ利用基準からすれば80倍、放射線管理区域の10倍にもなります。フレコンバッグをトラックに載せる人、運転する人、加工する人、埋設する人、近隣住民、水道敷設する人等すべて対象です。1人では闘えません闘う労働組合がいます。闘う拠点がいます。全国に闘う仲間がいます。労働組合を作って闘うこと。そして韓国民主労総のように、全国ゼネラルストライキで闘うことです。

◆戦争を止めることも可能だ

皆さんは、安保、自衛戦争、オリンピック、改憲を認める野党共闘で、戦争を止められると思いますか。国会前だけで勝てますか。よく考えてみれば戦争なんて、行かされる労働者が絶対反対すれば止められるのではないですか。

敵は、闘う前の「絶望と敗北主義」です。闘いはやってみなくてはわかりません。3カ月雇用の非正規で組織した鈴木コンクリート工業分会は勝ったではありませんか。動労千葉は不当労働行為を最高裁で勝ち取り、JR本社そのものを追い詰めています。

何よりも全世界の労働者が新自由主義に反対し立ちあがり始めたということです。時代は闘う労働者の時代です。沈黙は死です。全労働者が必死に一斉に立ち上がり、ゼネラルストライキをやり、国境を越えて団結しましょう。私はこの壮大な時代の先頭に立って闘う決意です。

伊方原発再稼働絶対反対！ 絶対に止めてやる！

NAZENえひめ 平野



四国電力は8月12日午前9時、伊方原発3号機の再稼働を強行しました。福島原発事故を何一つ反省せず、原発再稼働を強行した四国電力と、安倍政権を絶対に許しません！

この暴挙に対して、伊方原発の地元住民を中心に反対行動が呼びかけられ、10日から2日にかけて、伊方原発前で、松山で、四電高松本社前で再稼働阻止の行動が連続的に行われ、県内、そして全国からも多くの仲間が集まって抗議の声を上げました。

これに先立って7月17日には松山市駅坊ちゃん広場で「住民も労働者も被ばくしてはいけない。伊方原発再稼働阻止」集会とデモが、愛媛県職員労働組合の呼びかけで行われました(写真上)。この集会は3月に続いて、県庁で働く労働組合が知事の足元から再稼働絶対反対を呼びかけ、原発関連労働者はじめあらゆる労働者・地域住民に、団結して原発を止めようと訴える画期的なとりくみです。

事故が起きれば、住民は避難や被ばくを強制され、県職員はじめ自治体労働者、避難や医療、工事などにかかわるあらゆる労働者に被曝労働が業務として強制されます。職場・組合で安全問題・被曝問題を取り上げて、「だから原発は反対だ」と団結を広げていくことで再稼働を止め、原発をなくす力になります。こうした行動を通して、なんとしても原発関係労働者の中にも労働組合をつくっていくことです。そして労働組合と地域住民が団結して行動を広げれ

ば、必ず再稼働は止められます！そして止めましょう！

11日のゲート前集会(写真下)でも愛媛県職労から発言がありましたが、「労働組合の方針で原発反対を真っ向訴えていること、被曝労働拒否を職場で闘い、団結を広げよう、住民も労働者も被ばくしてはならない」とのアピールは行動参加者の大きな共感を受け、伊方原発ゲート前行動に闘いの方針が一本通ったような感動を覚えました。

再稼働の当日12日は前日から引き続いて朝の6時から原発ゲート前に押し掛けて抗議行動を激しく続けました。再稼働予定を発表して以



来、愛媛県警は、伊方原発ゲート前に続く道路をすべて車両通行禁止とし、原発周辺の道路の3分の2を鉄柵で封鎖して多くの警察官を配置し、反対行動の圧殺を狙ってきました。一私企業のもうけのために、国家権力を大量投入する国家は、まさに1%のための国家です。全原発廃炉の闘いは戦争と改憲・貧困と非正規化の安倍政権を打倒し、新自由主義を打倒するまでやまない闘いです。そこに目標を見定めた時に、必ず勝利の展望がでてきます。労働者が団結して労働組合の拠点をつくって地域住民と結びつき団結を広げましょう。

高浜原発を止めたように、絶対に伊方原発を止めましょう！私たちは必ず原発廃炉を実現できます。なぜなら勝つまで闘いをやめないからです。決意を新たに頑張りましょう。

京都府職労舞鶴支部を中心に

『A2-B-C』 舞鶴上映会が大成功

7月3日、舞鶴市政記念館での映画『A2-B-C』の上映会が、60人の結集で大成功しました。

はじめに舞鶴支部の長岡達也さんより「当局との交渉で、避難経路が作られていない事が明らかになった。避難やヨウ素剤を配る仕事を私たちがさせられるのだが、原発を動かさないために組合が頑張っている。原発を廃炉にするのが私の願い。市民のみなさんとも一緒に闘いたい。」と力強くあいさつ、上映に移りました。

上映の後、参加者から活発な意見が出されました。地元のお母さんからは「高浜原発の近くに住んでいて、説明会に参加してとても避難できないと思った。『子どもに原発の話をするのはどうか』という考えもあるが、いつも一緒にいて守ってあげられる訳ではない。自分の身を守るには、汚染した地域に戻そうとするような



国の政策を変えさせるしかない子どもと話し合っている。同じ考えの方が団結して廃炉にできるように私もがんばりたい」と訴えられました。別のお母さんからも「避難が一番、生命が一番、申し入れの内容はヨウ素剤を配ること。そのことによって、みんなが原発の事を意識せざるを得なくなる。みんなで声をあげていきましょう」と訴えられ、闘いの拡がりを感じました。

NAZEN関西事務局 吾郷・遠坂

婦民全国協関西の山本さんからは「事前に映画の宣伝で幼稚園に行ったが、若い先生が快く引き受けてくれたり、すでにビラが貼られている所もあった」。NAZEN関西代表で自治体労働者の深町さんは「熊本地震ではっきりしたのは、地震で原発がつぶれたら船でも新幹線でも逃げられない。原発を廃炉にするために闘いましょう」。大阪の教育労働者は「舞鶴支部という労働組合が原発廃炉を闘っていることが重要」「フランスのようにストライキで闘う労働組合をつくろう」と発言がありました。

高浜原発再稼働絶対反対・廃炉実現の闘いを、舞鶴支部の闘いの前進とつながる労働者、市民の闘いの団結で何としても勝ち取りましょう。

◆8・27避難訓練絶対反対の決意を固める

動労水戸が常磐線の小高延伸・運転再開に反対しストライキに立ち上がった7月12日、NAZEN関西定例会を開催し、7・3舞鶴上映会を総括し、高浜原発避難訓練絶対反対の闘いへの決意を固めました。

8・27訓練は福井、滋賀、京都3府県が一体となった初の訓練です。しかも単に避難するだけでなく、車両のスクリーニングなども行う大がかりなもので、これに自治体労働者・教育労働者、地域住民が動員されるのです。「8・27訓練は京都府職労舞鶴支部つぶしが一番の狙いであることをはっきりさせよう」「8月27日に向かって、どうやって当局・資本と闘うかが大切」と代表の深町さんが強調しました。

各地にNAZENをつくるため、8月19日に八尾、10月29日には兵庫で『A2-B-C』を上映することが報告され、9月10～11日には3年連続の福島現地ツアーも決定しました。福島と固く連帯して、ともに闘いましょう。

千葉保養、新たな仲間 の参加に心をうたれる

原発なくせ！ちばアクション ／避難プロジェクト@ちば

初夏の穏やかな晴天のもと、7月22～26日の5日間千葉県勝浦市にて無事に成功しました。

記念すべき10回目の千葉保養は、福島から10家族35人をむかえ、ボランティアスタッフを含め、延べ100名をこえる過去最多の参加となりました。寄せられたカンパも99万集まりました。保養の中で、福島の2名の方が、高熱を出し体調を崩すなどのことがありました。福島の健康問題について改めてみなが考えました。これまでの経験豊富なスタッフに加え、地元外房の方々や若いスタッフを迎えました。幅広い年齢層の多彩なスタッフの自主的な参加は、心強いかぎりでした。

交流会などでは、健康被害が拡大していること、地域や家族が分断されていること、教育現場で子どもたちが、草むしりをやらされる、弁当や飲み物の持参ができないなど、厳しい現状にあることが語られました。

また、今年は熊本震災の影響もあり、全国の保養団体数が少なくなる一方、保養に出たい福島の家族が増加し、夏の保養は参加することが難しかったなど、多く語られました。ボランティアや家族の方が、時折、涙する場面もあり、「福島原発事故は終わっていないな」と感じ、本当に大事なプロジェクトであると心を新たにしました。

また、保養に出ることで、「実家のように暖



かく迎えてくれる千葉の人たちと交流できる」と、保養の意味が年々変化し、重要になってきていることを再確認できました。千葉保養のモットーが活かされたと感じます。

また参加家族の多くが、「事故から5年目は正念場。保養運動はこれからだ！」と家族と固く誓いあう熱気と感動の保養でした。

いま東京オリンピックに向けて、福島では帰還強制の動きが強まっています。飯舘村などの高線量地域への帰還となれば、様々な保障が打ち切られます。現在、行政などの補助金などで行われている保養も打ち切られ、もっと減少する可能性もあります。

私たちは、国に対してあらためて「NO！」を突きつける。それが保養であるし、大きな行動につながると思います。

(スタッフK)



○参加した家族からの感想

5日間、実家に帰ったようにゆっくり、ゆったりと過ごすことができました。おいしい安全な食事と子どもたちをやさしく見守ってくれるスタッフのみなさまに本当に感謝です。福島では安心・安全、食べて応援などの話ばかりで、うんざりします。

セシウムしか計測していない食品は100ベクレル以下でも安全なのか？ 100ベクレルは安全な数字なのか？ 私はそうは思いません。でも福島では安全ということになっています。私はおかしいのか？？ いろいろ周囲に言われて葛藤した日も、涙を流した日もありまし

た。

まだまだ安全とはほど遠い福島で、子育てするために保養は欠かせないものです。福島の子どもたちが健康で成長するためにどうかこれからも力をお貸しください。ご支援いただきましたみなさまに心から感謝しています。ありがとうございました。(Aさん)

5日間の長崎保養 みんなの笑顔が嬉しい

**NAZENナガサキ
事務局長・橋里耕悟**

長崎保養は7月25日～29日までの5日間、長崎市茂木で行われました。熊本大地震に続いて、つい先頃までの大雨がウソのように、連日保養日和でした。参加者は、昨年参加した2家族と新しく参加した家族とその中学生の友達、全部で親御さん4人、子ども8人の12人。

まず長崎空港での出会いからはじまります。お母さんの感想、「空港で出迎えてくれた時の皆さんの笑顔、去年の笑顔とおんなじ、優しくなつかしい笑顔で『ああ、また会えた～!!』と本当に本当にうれしく幸せな気持ちではじまった5日間」。

到着して昼食のあとペンギン水族館へ。魚も泳いでいて、海の中にいる気分。ペンギンには子ども達みんなさわらせてもらって喜んでいました。

次の日からはいよいよ海水浴。去年は最初海に入るのを怖がっていた子は、今年ははじめから元気いっぱい海の中へ。砂の上を走り回ること。成長を感じました。新しく来た子もすぐに仲良くなり遊んでいました。そしてお母さんもお父さんも海へ。

お母さんの感想、「長崎での一番の楽しみだった海。今年は結の浜での海水浴。とてもきれいに整備された場所で思う存分泳いで遊んで真っ黒になりました。そんな楽しそうな子どもの姿を見て親としては本当にうれしい気持ちで一杯でした」。8歳の子ども「ぼくはみんなとあそべてとても楽しかったです。うみに行ったりし



て楽しかったです。また、このほようにきたいです」。

長崎では、原爆のこと、戦争のことを学ぶことにしています。城臺美彌子さんともう一人の被爆者が案内しました。中学生の感想、「僕は、ここに来ていろいろなことを学ぶことができました。たとえば原発は放射能が放出して大変だったけれど、原爆は放射能だけではなく、すごい熱を発したり、爆発がおきて大変どころではなかったと思います」。



こんな事もありました。2時間泳いで帰ろうかとみんなそろったところ、お母さんが「15分でいいからブランコとかやれる所に寄れませんか」と。幸い近くに公園があって立ち寄ると、ジャングルジムなどたくさんの遊具があって、子ども達、全部の遊具で遊びました、ほんの少しの時間なのに。

最後の帰る日。帰り支度をするちょっとした時間に、子ども達は港の防波堤で鱒子釣りをしました。30匹も釣れて満足。

お互いの交流もたくさんあってフクシマとナガサキの一体感をつかみました。

最後に、非常に大切なのは食事。子どもの感想、「ここで食べた料理もうまかった」。この民宿は、地元でとれた無農薬野菜を使用しているとのこと。放射能を気にせず食べられる喜びを味わえたのでは。

スケジュール

■フクシマの怒りとつながり、高浜原発再稼働を止めよう 映画『A2-B-C』八尾北上映会

とき 8月19日(日) 午後6時30分上映
 ところ 大阪 八尾北医療センター1階(大阪府八尾市桂町6-18-1) 甲状腺エコー検査も行っています
 主催 八尾北医療センター労働組合/NAZEN八尾 072-999-3555

■神奈川東電デモ 第55弾

とき 8月26日(金)
 18時~桜木町駅前街宣
 19時~デモ
 ところ JR桜木町駅前
 主催 神奈川東電デモ実行委員会
 ブログ <http://ameblo.jp/kng-todendemo/>

■第2回 熊本討論学習会

とき 8月28日(日) 13時30分~
 ところ くまもと県民交流館(パレア) 会議室4
 講演 「川内・伊方原発と熊本大地震」 須藤靖明さん
 主催 とめよう戦争への道! 百万人署名運動熊本県連絡会(準)、福岡県連絡会 連絡先 080-5218-1917(和田)

■無実の星野文昭さんを取り戻そう! 9・4徳島刑務所包囲デモ

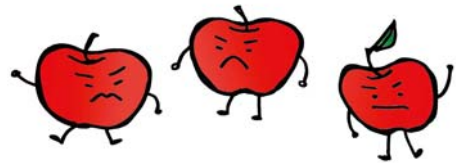
とき 9月4日(日) 午後1時集合 2時半~デモ
 ところ 徳島市入田町春日橋たもと河川敷
 星野さんを取り戻そう! 全国再審連絡会議



みなさんの力でNAZENの活動を支えてください。年会費(1月~12月)個人一口2000円、団体一口3000円です。8月16日~18日の北富士保養に必要な100万円まであと15万円必要です。夏の全国の保養にそれぞれ、できる範囲でご協力お願いいたします。

◆◆◆ 郵便局 振替口座 ◆◆◆

口座番号 00120-8-763817
 加入者名 NAZEN
 銀行口座からの振込の場合 〇一九店 0763817
 ※振り込みの際は、「年会費〇人、〇団体分」
 「保養カンパ」などお書き下さい



■新潟・映画「A2-B-C」上映会

1回目 とき 9月10日(土) 午後1時30~
 ところ 胎内市産業文化会館
 2回目 とき 9月11日(日) 午後1時30~
 ところ 新潟市亀田駅前地域交流センター
 ふくしま共同診療所建設委員会の椎名千恵子さんのお話あり
 主催 「A2-B-C」新潟上映実行委員会
 連絡先 090(2842)9127 山口

■ふくしま保養交流会

とき 9月25日(日) 午後1時30分~4時
 ところ 郡山市中央公民館第一会議室
 福島県郡山市麓山一丁目8-4
 主催 NAZENフクシマ
 連絡先 090(7062)9384

■兵庫県・西宮映画『A2-B-C』上映会

とき 10月29日(土) ①14時~②18時~
 ところ 西宮市男女共同参画センターウエーブ 413・414号室
 (西宮市高松町4-8 プレラにしのみや4階)
 主催: 婦人民主クラブ全国協議会阪神読者会「たんぼの会」
 連絡先: 080-5325-0662 山本

■労働者の国際的団結で戦争をとめよう!

11・6全国労働者集会
 とき 11月6日(日) 正午~
 ところ 東京・日比谷野外音楽堂
 よびかけ 全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部/全国金属機械労働組合・港合同/国鉄千葉動力車労働組合/国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動
 連絡先 043-222-7207 (動労千葉)

◆◆◆ 診療所基金はこちら ◆◆◆

福島診療所建設委員会の口座へ

- ★郵便振込口座 02200-8-126405
 福島診療所建設基金
- ★銀行口座
 福島銀行 本店(110) 普通 1252841
 福島診療所建設基金 代表 渡辺 馨
- ★PayPalでのお振り込み
 アカウント
clinicfukushima@yahoo.co.jp
 渡辺馨(福島診療所建設委員会)

